



(写真左上) 筆者(中央)が中学生の頃、福島氏兄弟と行った志賀高原での一葉。(写真右下) 筆者の結婚式での一葉。



牛に牽かれて善光寺

チャールズ D.レイク II

アメリカンファミリー生命保険 (アフラック) 取締役副会長

古いアルバムを開くたびに感謝の気持ちがいっぱい溢れる。現在の自分が存在するのは、家族はもとより、多くの親戚や友人、先輩方に支えられてきたからだということ、を再認識するからである。

左上の写真は、中学生の時に志賀高原横手山で撮ったもの。右下は、私の結婚式の写真である。両方の写真に登場するのは信州善光寺宿坊玄證院の住職、福島貴和氏である。左上の写真の左側に写っているのは福

島 貴和氏、貴和氏の弟で、彼も今はお坊さんである。アメリカ人の私がなぜ善光寺のお坊さんと昔からお付き合いがあるのか？ 私の父はアメリカ人で、母は日本人である。私

が、3歳の時に家族共々、日本に移住し中学校までは日本で過ごした。玄證院住職の貴和氏は、私の遠い親戚にあたるが、貴和氏のお父上、福島 貴和氏(玄證院前任住職)が東京で勉強していた頃、私の祖父の家で下宿し、母とは兄弟のように育ったとのことで、昔から家族ぐるみ

の親しい交流があった。私は小学生・中学生時代は毎年長野に遊びに行き、夏は戸隠でキャンプ、冬は志賀高原でスキーをした。そして、その都度泊まったのは信州善光寺にある宿坊玄證院であった。ただ、それだけではない。貴和氏は1992年に住職になる前は、工学博士として活動していた。貴和氏が化学工学の博士号を1976年に取得するため、東京工業

ていのは福島 貴和氏、貴和氏の弟で、彼も今はお坊さんである。アメリカ人の私がなぜ善光寺のお坊さんと昔からお付き合いがあるのか？ 私の父はアメリカ人で、母は日本人である。私

が、3歳の時に家族共々、日本に移住し中学校までは日本で過ごした。玄證院住職の貴和氏は、私の遠い親戚にあたるが、貴和氏のお父上、福島 貴和氏(玄證院前任住職)が東京で勉強していた頃、私の祖父の家で下宿し、母とは兄弟のように育ったとのことで、昔から家族ぐるみ

の親しい交流があった。私は小学生・中学生時代は毎年長野に遊びに行き、夏は戸隠でキャンプ、冬は志賀高原でスキーをした。そして、その都度泊まったのは信州善光寺にある宿坊玄證院であった。ただ、それだけではない。貴和氏は1992年に住職になる前は、工学博士として活動していた。貴和氏が化学工学の博士号を1976年に取得するため、東京工業



私の思い出写真館

大学大学院で学んでいた頃は、中学生であった私の家庭教師でもあった。たいへん生意気な子どもであった私をスキーに連れて行き、勉強を教えてくれたのは、幼い頃からよく知っている私を心配してのことであろう。私の父は心臓が悪く、私が13歳の時に他界した。特に父が亡くなった後は、貴和氏や暁和氏のような親戚が常に私を支えてくれたのである。

